



令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 公立小中学校の平均正答率（％）および平均 IRT スコア

このたび、文部科学省から調査結果が県教育委員会に提供され、県内の公立小中学校の国語・算数（数学）の平均正答率および中学校の英語 3 技能（聞くこと、読むこと、書くこと）の平均 IRT スコアは、下表のとおりでした。（新潟県、全国ともに政令市を含みます。）

なお、英語「話すこと」の調査結果は、9 月以降に文部科学省から県教育委員会に提供されます。それを受け次第、公表いたします。

小学校＜国語＞

新潟県	全国
58	60.9

小学校＜算数＞

新潟県	全国
55	56.4

中学校＜国語＞

新潟県	全国
62	63.9

中学校＜数学＞

新潟県	全国
54	57.0

中学校＜英語 3 技能＞

新潟県	全国
482	499

※ IRT とは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度で比較するためのものです。IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準に算出した値です。

2 結果速報について

調査の概要等については、別添の結果速報をご覧ください。

本件についてのお問い合わせ先
義務教育課指導第 1 係 高橋
(直通) 025-280-5604 (内線) 3859

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果速報

令和8年8月
新潟県教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日

国語及び算数・数学	(小学校・中学校)	4月23日(木)
英語「話すこと」以外	(中学校)	4月20日(月)～23日(木)
英語「話すこと」	(中学校)	A 4月24日(金)又は27日(月)
		B 4月28日(火)～5月29日(金)
* Aは当日実施(全国から約500校抽出)、Bは期間内実施		
児童生徒質問調査	(小学校)	4月24日(金)～5月8日(金)
	(中学校)	4月20日(月)～23日(木)
学校質問調査	(小学校・中学校)	4月1日(水)～17日(金)

(3) 調査対象

- ① 小学校第6学年
- ② 中学校第3学年

(4) 調査事項

- ① 児童生徒：教科に関する調査(国語、算数・数学、英語*中学校のみ)及び質問調査
- ② 学 校：学校質問調査

(5) 今年度の調査の特徴

- ・ 中学校英語及び質問調査はICT端末等を用いた、オンライン方式で実施
- ・ 英語「話すこと」は当日実施校(約500校)と期間内実施校に分けて実施

(6) 文部科学省によるHPでの結果公表スケジュール

- 7月16日(木)12時以降 ①正答率・IRTバンド分布などの全国平均
※英語「話すこと」は、当日実施校の結果
- 8月3日(月)17時以降 ②全国データに基づく分析結果
- 9月以降 ③都道府県・指定都市別データに基づく分析結果
※英語「話すこと」は、期間内実施校の結果を含む

(7) 本県の結果公表スケジュール

- 8月3日(月) 結果速報
- 9月以降 結果詳報(英語「話すこと」の結果を含む結果分析)

本県の結果について

- (1) 国語及び算数・数学の平均正答率（％）と英語３技能の平均 I R T スコア
 小学校第 6 学年＜国語＞ 中学校第 3 学年＜国語＞

新潟県	全国
58	60.9

新潟県	全国
62	63.9

小学校第 6 学年＜算数＞	
新潟県	全国
55	56.4

中学校第 3 学年＜数学＞	
新潟県	全国
54	57.0

中学校第 3 学年＜英語 3 技能＞	
新潟県	全国
482	499

- (2) 全国（公立）の平均正答率との比較（直近 8 年の推移）

学年	教科	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
小学校 第 6 学年	国語	◎	実施せず	□	□	□	□	□	▽
	算数	□		▽	▽	□	▽	▽	▽
	理科				□			▽	
中学校 第 3 学年	国語	○		□	▽	□	▽	□	▽
	数学	□		▽	▽	▽	▽	▽	▽
	理科				□			▽ ^{IRT}	
	英語	▽				▼			▼ ^{IRT}

＜記号の意味＞

	国語，算数・数学	英語 3 技能 *IRT スコア
◎ 大きく上回っている	+ 5 ポイント以上	+10 ポイント以上
○ 上回っている	+ 1 ～+ 5 ポイント	+ 5 ～+10 ポイント
□ 同じ	± 1 ポイントに満たない	± 5 ポイントに満たない
▽ 下回っている	- 1 ～- 5 ポイント	- 5 ～-10 ポイント
▼ 大きく下回っている	- 5 ポイント以上	-10 ポイント以上

各教科の結果について

1 国語

(1) 小学校第6学年

① 教科の平均正答率

	全 体
全国との比較	－2.9

② 学習指導要領の内容別平均正答率

	知識及び技能			思考力，判断力，表現力等		
	言葉の特徴 や使い方	情報の扱 い方	我が国の 言語文化	話す・聞 く	書く	読む
全国との比較	－4.6	－2.4		－1.8	－3.1	－2.7

③ 観点別平均正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国との比較	－3.9	－2.5

④ 問題形式別平均正答率

	選択式	短答式	記述式
全国との比較	－2.6	－5.7	－2.8

県の平均正答率は全国平均を2.9ポイント下回った。学習指導要領の内容別では、「言葉の特徴や使い方」について、具体的には漢字を書く問題の正答率が全国平均と比べて著しく低く、日常的な漢字の定着と、文中での正しい活用に課題が見られる。また、「情報の扱い方」について、情報をまとめたメモについて、複数の情報がどのように関係付けているかを理解することに課題が見られた。漢字や語彙を定着させるために日常的な指導を徹底するとともに、アウトプットの機会を継続的に確保して記述力を高める指導が必要であると考えられる。

(2) 中学校第3学年

① 教科の平均正答率

	全 体
全国との比較	－1.9

② 学習指導要領の内容別平均正答率

	知識及び技能			思考力，判断力，表現力等		
	言葉の特徴 や使い方	情報の扱 い方	我が国の 言語文化	話す・聞 く	書く	読む
全国との比較	－1.4	－3.2		－2.6	－0.9	－1.2

③ 観点別平均正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国との比較	－1.6	－1.6

④ 問題形式別平均正答率

	選択式	短答式	記述式
全国との比較	－1.8	－1.4	－1.2

県の平均正答率は全国平均を1.9ポイント下回った。学習指導要領の内容別では、「情報の扱い方」の正答率が全国平均を大きく下回った。具体的には複数の情報を整理・要約し、その関係を捉えて考える問題や、自分の考えを記述する問題で課題が見られた。また、記述式問題では無解答率が全国平均より高く、考えを文章で表現する力や、最後まで粘り強く取り組む態度の育成が今後の課題であると考えられる。

2 算数・数学

(1) 小学校第6学年

① 教科の平均正答率

	全 体
全国との比較	－1.4

② 学習指導要領の内容別平均正答率

	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
全国との比較	－2.7	－1.9	－1.6	－1.0	－3.3

③ 観点別平均正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国との比較	－2.0	－1.4

④ 問題形式別平均正答率

	選択式	短答式	記述式
全国との比較	－0.8	－1.9	－3.6

県の平均正答率は全国平均を1.4ポイント下回った。学習指導要領の内容別では、「データの活用」で、問題形式別では記述式の問題で全国平均との差が大きい。「2種類の表を見比べ、整合しない部分を見出し、その内容を言葉で記述する問題」での正答率が低く、無解答も多い。また、「図形」では、「図形を構成する要素に着目し、状況から調べたい数量を見出し、その求め方を数や言葉で記述する問題」での正答率が低い。単に答えを求めるだけでなく、「なぜその考え（式）に至ったのか」を言葉や図、式を用いて説明し合う言語活動を日常の授業の中に意図的に取り入れる必要がある。

(2) 中学校第3学年

① 教科の平均正答率

	全 体
全国との比較	－3.0

② 学習指導要領の内容別平均正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
全国との比較	－2.5	－3.1	－3.4	－2.3

③ 観点別平均正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国との比較	－2.6	－3.2

④ 問題形式別平均正答率

	選択式	短答式	記述式
全国との比較	－2.1	－2.8	－3.2

県の平均正答率は全国平均を3.0ポイント下回った。学習指導要領の内容別では、「関数」「図形」で全国平均との差が比較的大きく、観点別では「思考・判断・表現」に課題が見られた。特に、数学的な根拠を基に説明したり証明したりする問題や、データを基に判断理由を記述する問題で正答率が低く、無解答率も全国平均より高い傾向が見られる。基礎的な知識・技能を活用し、理由や考えを数学的に表現する学習を一層充実させることが求められる。

3 英語

(1) 中学校第3学年

① 教科の平均 I R T スコア

	全 体
全国との比較	－17

② 学習指導要領の内容別の正答率の平均

	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
全国との比較	－4.2	－2.4	9月以降公表	－3.0

③ 観点別の正答率の平均

	知識・技能	思考・判断・表現
全国との比較	－2.5	－3.4

④ 問題形式別の正答率の平均

	選択式	短答式	記述式
全国との比較	－3.3	－2.9	－3.1

※英語は問題によって対象解答者が異なるため、類別されたまとまりでの平均正答率が示されていない。よって、問題ごとの正答率を平均した値で比較している。

県の平均 IRT スコアは全国平均を 17 ポイント下回った。学習指導要領の内容別では、「聞くこと」「読むこと」において、複雑な文脈理解・時系列整理、簡単な情報の聞き取りから一歩進んだ「要旨や文脈の深い理解」に大きな課題がある。また、「書くこと」においては、身近な題材での自己表現の自由英作文は全国平均を上回ったものの、論理的記述の自由英作文正答率が 2 割台であり、無解答率も全国平均より高い。概要や要点を捉える力を高めるために、「聞くこと」や「読むこと」の指導を強化するとともに、身近な自己表現ができる力を論理的記述ができる力へ高める指導が求められる。

学習状況調査（児童生徒質問調査）の結果について（主な質問と結果）

1 授業理解の意識に関すること（肯定評価の割合の合計）

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
(54)	国語の授業の内容はよく分かる	84.9	81.5	78.4	76.8
(62)	算数（数学）の授業の内容はよく分かる	77.6	77.5	76.0	74.2
中(71)	英語の授業の内容はよく分かる			65.0	64.2

すべての学年・教科で「授業の内容はよくわかる」割合が全国平均を上回っている。

2 生活習慣に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
(4)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（学習とゲームをする時間は除く）	【3時間以上】			
		42.4	37.6	52.3	49.6
		【2時間以上】			
		67.3	57.6	80.0	74.9

小学生の約3分の2、中学生の8割が毎日2時間以上をスクリーンタイムに費やしている。

3 学習習慣に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	【2時間以上】			
		11.7	21.6	16.9	30.1
		【1時間以上】			
		51.8	49.9	53.4	61.6

平日1時間以上家庭学習に取り組む割合は、小学校では全国平均を上回っているものの、中学校では下回っており、いずれも減少傾向が見られる。

